

近世以降の鎌倉における旅行者視点から捉えたまちなみ形成に関する研究
 —『鎌倉絵図』における通りとまちなみ描写との関係に着目して—
 Study on the Townscape formation from Tourists Viewpoint after Early Modern Kamakura
 —Focus on Streets and townscape from “Kamakura Ezu”—

○野村誠志¹, 横内憲久², 岡田智秀², 押田佳子²

*Seiji Nomura¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada², Keiko Oshida²

Abstract: This paper aims to clarify streets and townscape formation after early modern Kamakura from map of Kamakura Ezu. We surveyed information about townscape-street name and building depiction from Kamakura Ezu. As a result, street name was tended to be marked Kiritoshi and then townscape were depicted as set with tourism resources.

1. はじめに—鎌倉における観光歴史は古く、江戸時代(以下、近世)まで遡る。その全盛期を迎えた^[1] 17世紀後半から18世紀には数多くの観光客を迎えるべく、当時の観光マップにあたる「鎌倉絵図」が刊行され、今日までに50枚以上が確認されている^[2]。この「鎌倉絵図」は鎌倉内外の版元で出版されており^[3]、近世鎌倉観光を知る上で重要な資料といえ、既往研究において主要な観光資源^[3]^[4] および観光景観の変容、通りの格^[5]、などが明らかにされている。しかしながら、これらにおいて当時の鎌倉観光を支えた地域の空間状況については明らかにされていない。観光は、地域と来訪者との係わりが重要であり、この点について、「鎌倉絵図」において地域がどのように来訪者に示されていたのかを捉える必要があると考える。

以上を踏まえ、本研究では近世以降の観光情報として来訪者に示された鎌倉のまちなみを地域の状況として捉え、その形成過程を明らかにする。本稿では「鎌倉絵図」における通り名、およびそれに付帯するまちなみの描写状況を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法—Figure1に研究対象である鎌倉絵図の基本情報と研究方法を示す。Table1より、本稿では「復元鎌倉古絵図略解」^[2]に掲載された鎌倉絵図、全9図を対象とする。

3. 結果および考察—Table2に鎌倉絵図に記載されていた通り名の記載を、Table3に通りごとのまちなみ描写、Figure2に鎌倉中心部の通り名とまちなみ描写の分布状況を示す。

(1) 通り名の記載—Table2より、通り名の記載は全図にみられ、記載数は第四図の15回が最も多く、次いで第八図の11回、第七図の10回となっており、第三図以降、つまり18世紀以降に記載数が増える傾向を捉えた。

通りごとの傾向をみると、「A 亀ヶ谷坂切通」「B 金沢街道(以下、朝比奈切通)」が共に最多の7図に記載をはじめ、全9図において5切通しが過半の絵図に記載されていた

ことに加え、現在と同じく観光資源として価値を有していたと考えられる。また、「I 若宮大路(以下、壇葛)」の通り名の記載は4図でありながら、全絵図への描写が確認された。これより、通りの記載はなくとも鎌倉の中心・鶴岡八幡宮の参道として、観光客にその存在感を示していたことが窺える。またFigure2より、通り名の記載は、鶴岡八幡宮を中心とした、都市の東西・南北軸を形成する通りに特徴的であることを捉えた。

(2) 通りとまちなみ描写との関係—Table3より、まちなみの記載は全9図中7図にみられ、絵図ごとにおけるまちなみ描写と通りの関係に着目すると、第五図において21通りにまちなみ描写がみられた。

通りごとのまちなみ描写に着目すると、「G 小町大路」「D 鎌倉街道(以下、小袋坂)」が共に最多の7図でみられ、過半の5図以上にまちなみ描写がみられた8通り中4通りは、通り名の記載においても過半であることを捉えた。

Figure2より、まちなみ描写が過半の通りは鶴岡八幡宮周辺と「K 金沢街道-G 小町大路」「E 長谷小路」に集中している。近世当時の鶴岡八幡宮門前、「I 段葛」を含む「Q 若宮大路」は、地域住民が住まうことが認められていなかったことより^[1]、これらの通りに地域生活の場となるまちなみが形成されたと考えられる。また、「K 金沢街道-G 小町大路」「E 長谷小路」ともに、浄妙寺や長谷寺・鎌倉大仏(高德院)といった観光資源となりうる有名寺社が立地することより、描写されたまちなみは来訪者に地域の賑わいを示す指標となっただけでなく、宿泊や食事などの観光施設も数多く含まれていたと考えられる。

以上より、近世鎌倉におけるまちなみ描写は、鶴岡八幡宮を中心とした主要な通り沿いに、鎌倉観光に寄り添う形で示されたことが捉えられた。

4. おわりに—本研究では、鎌倉絵図における通り名の記載とまちなみ描写状況を明らかにした。その結果、通り名は観光資源を兼ねる「切通し」が記載されやすく、ま

1: 日大理工・学部・建築 2: 日大理工・教員・まち

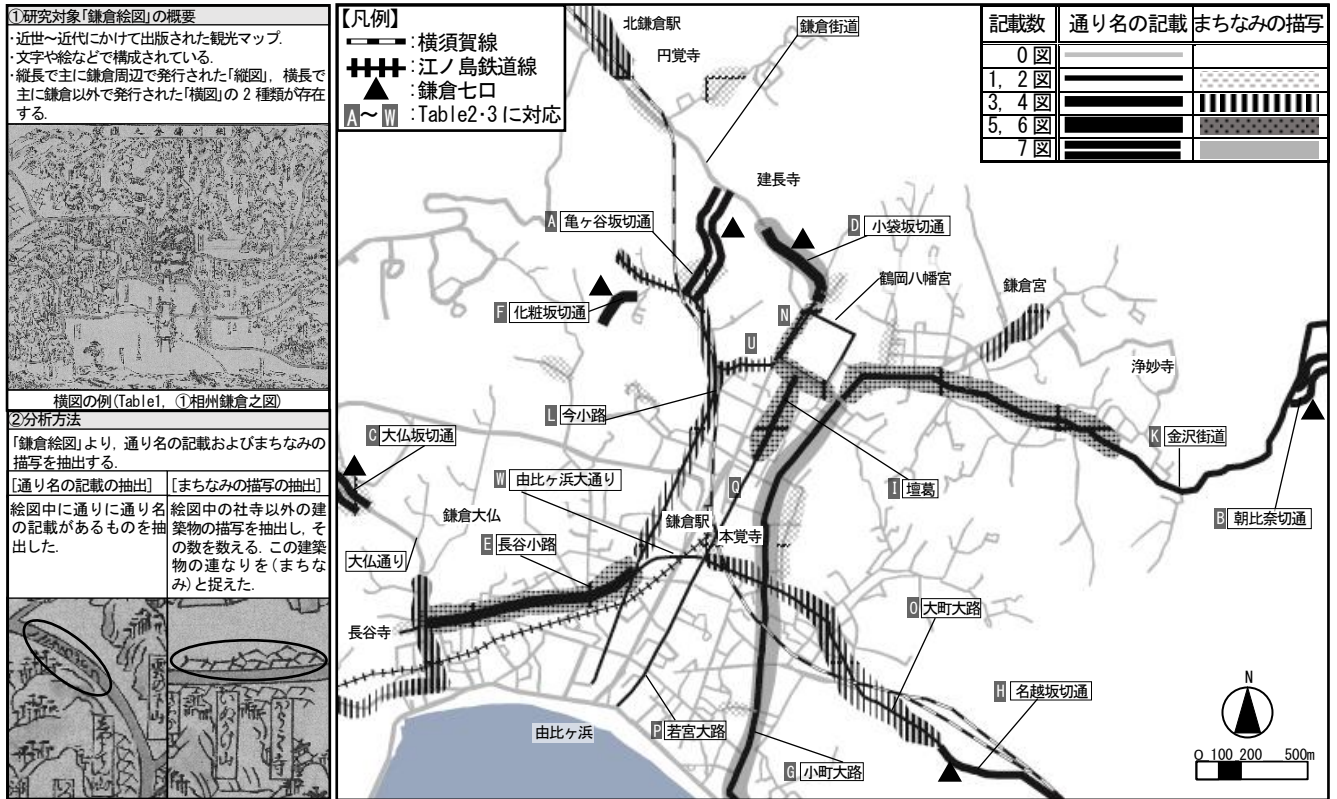


Figure1. Research object and Methods Figure2. The map of the central Kamakura (This is original figure by authors)

Table1. The outline of KAMAKURA EZU (This is original table by authors)

	対応番号	図番号	分類	絵図名	刊行年代(西暦和暦)
↑古い 新しい↓	①	第一図	横図	相州鎌倉之図	1867~(明治初期年)
	②	第二図	横図	鎌倉絵図	1661~1672(寛文年)
	③	第三図	縦図	鎌倉絵図	1744~1750(延享・寛延年)
	④	第四図	横図	鎌倉名勝図	1764~1780(天明・安永年)
	⑤	第五図	横図	鎌倉勝概図	1789~1804(寛政・享和年)
	⑥	第六図	縦図	鎌倉絵図	1804~1830(文化・文政年)
	⑦	第七図	横図	鎌倉総図江之嶋金沢遠景	1854~1856(安政年)
	⑧	第八図	横図	鎌倉一覽図	1878(明治11年)
	⑨	第九図	横図	鎌倉江嶋一覽	1887(明治20年)

Table2. The number of street name depiction (This is original table by authors)

現在の通り名	記載件数(件)									記載数(図)
	←古い				新しい→					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
A 亀ヶ谷坂切通	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
B 金沢街道(朝比奈切通)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
C 大仏通り(大仏切通)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
D 鎌倉街道(小袋坂切通)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6
E 由比ヶ浜大通り(長谷小路)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6
F 化粧坂切通	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5
G 小町大路	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4
H 名越坂切通	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4
I 若宮大路(壇墓)	△	△	△	△	△	△	△	△	△	4
J 鎌倉街道(戸塚道)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3
K 金沢街道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3
L 今小路	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2
M 鎌倉街道(横浜道)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2
N 鎌倉街道(馬場小路)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2
O 大町大路	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2
P 由比ヶ浜大通り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2
Q 若宮大路	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
R 若宮大路(琵琶小路)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
S 鎌倉街道(玉縄道)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
T 例崎道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
U 窟小路	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
V 小町大路(小坪切通)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
W 鎌倉街道(今泉道)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
X 藤沢街道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
Y 新町道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
絵図ごとの件数(件)	4	3	8	15	7	9	10	11	8	75

※○は絵図に通り名の記載があったもの、△は描写があるもの、通り名の記載がないもの。記載数、絵図ごとの合計の数字は○をカウントしたものとす。対応番号①~⑨はTable1に対応している。

ちなみ描写は鎌倉観光に寄り添う形で描写され、両者がともに観光都市・鎌倉の来訪者に示すアイコンとして機能していたことを捉えた。今後は、紀行文などより来訪者の目から捉えたまちなみについても継続して調査し、観光都市鎌倉のまちなみ形成のプロセスについて明らかにする計画である。

Table3. Townscape by the street (This is original table by authors)

分類	現在の通り名	記載された建築物数(軒)									記載数(図)
		←古い				新しい→					
		①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨			
通り	G 小町大路	73	14	54	50	35	2	50	7		
	D 鎌倉街道(小袋坂切通)	20	3	2	16	8	1	11	7		
	I 若宮大路(壇墓)	9	7	10	16	28	0	19	6		
	O 大町大路	17	5	13	30	6	0	8	6		
	一 横大路	4	7	12	20	12	0	13	6		
	N 鎌倉街道(馬場小路)	33	0	11	6	8	0	12	5		
	B 金沢街道(朝比奈切通)	29	10	11	46	0	1	0	5		
	E 由比ヶ浜大通り(長谷小路)	17	0	4	6	21	0	14	5		
	一 鎌倉街道(大走りの小径)	15	0	6	12	8	0	0	4		
	U 窟小路	11	5	0	4	4	0	0	4		
	一 里ノ井通り	15	0	7	11	42	0	0	4		
	一 二階堂小路	0	0	2	5	0	3	0	3		
	L 今小路	0	0	26	9	8	0	0	3		
	V 小町大路(小坪切通)	8	0	3	10	0	0	0	3		
	一 大仏通り	0	2	10	9	0	0	0	3		
	A 亀ヶ谷坂切通	0	0	0	8	0	1	0	2		
	J 鎌倉街道(戸塚道)	17	0	0	0	12	0	0	2		
	一 鎌倉街道(宮下小路)	0	0	4	9	0	0	0	2		
	K 金沢街道	0	0	0	0	19	0	15	2		
	P 由比ヶ浜大通り	0	0	7	0	0	0	4	2		
	X 藤沢街道	0	0	0	0	6	0	7	2		
	W 鎌倉街道(今泉道)	0	0	2	0	0	0	0	1		
	S 鎌倉街道(玉縄道)	8	0	0	0	0	0	0	1		
	一 明月院通り	0	0	10	0	0	0	0	1		
	一 東谷の道	0	0	0	0	0	1	0	1		
	一 西大路	0	0	0	3	0	0	0	1		
	R 若宮大路(琵琶小路)	0	0	0	0	3	0	0	1		
	一 町小路	0	0	0	2	0	0	0	1		
	一 佐助稲荷道	0	0	0	0	0	2	0	1		
	一 御成道	0	0	0	6	0	0	0	1		
一 音松小路	0	0	0	0	9	0	0	1			
C 大仏通り(大仏切通)	0	0	0	3	0	0	0	1			
Y 新町道	0	0	0	0	47	0	0	1			
小計	14	8	18	21	17	7	10	95			
地名	一 江ノ島	3	0	0	0	4	30	25	4		
	一 久野谷	0	0	2	0	0	0	0	1		
	一 稲村ヶ崎	0	0	3	0	0	0	0	1		
	一 内川	0	0	0	0	6	0	0	1		
	一 平塚	0	0	0	0	21	0	0	1		
絵図ごとの建築物数の合計(軒)	15	8	20	21	20	8	11	103			

※Table内の数字は絵図に描写された建築物の軒数を示す。そして、記載数、絵図ごとの住宅記述の合計は上記の数字がいくつかの通りで見られたか合計したもの。対応番号①~⑨はTable1に対応している。また、A~Wの文字はTable2に対応している。

5. 参考文献

[1] 押田佳子:『鎌倉における伝統的な『古都観光』の継承に関する研究』,郷土神奈川,Vol.51,pp.1~27,2013
 [2] 澤寿郎:『復元鎌倉絵図略解』,東京美術,1976
 [3] 肥田川:『鎌倉絵図』にみる近世以降の観光資源の成立王および継承に関する研究—(その1)観光資源の成立過程について—,日本大学理工学部社会交通工学科卒業論文集,CD-R,2013
 [4] 大淵雅己:『鎌倉絵図』にみる近世以降の観光資源の成立王および継承に関する研究—(その2)観光資源の分布と価値の継承状況について—,日本大学理工学部社会交通工学科卒業論文集,CD-R,2013
 [5] 瀬畑尚純:『鎌倉観光からみた都市構造の変容に関する研究—(その2)名所としての「神社仏閣」の継承状況および「存続・消失要因」に着目して—』,日本大学理工学部学術講演会論文集,CD-R,2010